

項番	会議	委員ご意見	事務局回答
1	R4年度第2回政策委員会	身体障害者は高齢者が多く65才以上が7割を超えています。障害者1人暮らしであるとか高齢の夫婦世帯（どちらかもしくは両方が障害者）も多いと思うのでサポートを充実していただきたいと思います。	計画策定の際に検討してまいります。
2	R4年度第2回政策委員会	少数ではあるが、いわゆる「ヤングケアラー」の実態があるので、何とか解消に近づけるよう対策が必要だと感じました。	計画策定の際に検討してまいります。
3	R4年度第2回政策委員会	(9) 電車やバスなどを使った外出 では、発達障害は、すべてまたは一部の支援が必要な割合が多く、特徴的と思われました。公共交通機関を利用することに何らかの支援を必要している様子から、困りごとによってはタクシーなどの利用の助成や自動車運転免許取得費の助成などの支援を期待したいです。	計画策定にあたり、担当所管課に伝えます。
4	R4年度第2回政策委員会	実際、困難を感じている方が多いので、何とか改善や解決に向けた対策が取れないでしょうか。	計画策定の際に検討してまいります。
5	R4年度第2回政策委員会	高齢や障害のために自宅にすることが多い人に対して、話を聞いて相談に乗ってくれるような方が定期的に訪問したら孤立してしまうのを防げるのではないかと思います。	計画策定の際に参考にしております。
6	R4年度第2回政策委員会	「能力や障害の状態に応じた指導をしてほしい」の数値が高いことに驚きです。教育現場の様々な苦労は理解できますが、障害者に寄り添った教育は出来ないのでしょうか。教育委員会が福祉教育に対して本腰をあげて取り組む姿勢が重要だと思いますが。	計画策定にあたり、担当所管課に伝えます。
7	R4年度第2回政策委員会	「伝えていない」の理由が気になりました。障害者であるため、いわゆる「いじめ」を受け心を痛め離職した知人がいますが、企業指導など、積極的な何らかの対策は取れないものでしょうか。	計画策定にあたり、担当所管課に伝えます。
8	R4年度第2回政策委員会	一般企業などでの正社員として働いている方もいて、障害者雇用が少しずつ進んでいるのではないかと感じました。	計画策定にあたり、担当所管課に伝えます。
9	R4年度第2回政策委員会	職場に障害・病気を伝える必要がないと答えた人が多い→正直に言う自分も納得できる。	計画策定にあたり、担当所管課に伝えます。
10	R4年度第2回政策委員会	タクシー券を利用しています。タクシー料金の改定で基本料金が500円となり枚数は増えましたが1回につき1枚なので遠距離利用は負担が増えます。2000円を超えたら2枚使えとか利用方法は改定できないでしょうか。	計画策定にあたり、担当所管課に伝えます。
11	R4年度第2回政策委員会	福祉に関する情報（市のガイドブック）を知らない人が多いことには驚いた。何のためにガイドブックを作成したのか、初心に戻って改めて考える機会になったと思う。	計画策定にあたり、担当所管課に伝えます。
12	R4年度第2回政策委員会	「自分の思いを伝えることを控えてしまう」の回答には胸が痛みました。寄り添える職員や専門職の配置等、何とか改善できないでしょうか。	計画策定にあたり、担当所管課に伝えます。
13	R4年度第2回政策委員会	避難行動要支援者名簿について、知らない人が多いことは意外だった。実際、災害発生時にこういう名簿があったことに対してクレームとかプライバシー侵害だと誤解されるのを考えた場合、事前に丁寧な説明が必要でないかと思う。	計画策定にあたり、担当所管課に伝えます。
14	R4年度第2回政策委員会	要配慮者優先避難所の情報を知っている方が少ないようなので、対象者にマップのようなものを配布したらいいのではないかと思います。	計画策定にあたり、担当所管課に伝えます。
15	R4年度第2回政策委員会	薬等医療サービスの確保と答えた人が多い一方で、福祉避難所が近くにあることを望む人が少ない。どんな避難所であるか、知らない人が多いのではないかと、周知が足りていないのではないかと感じた。	計画策定にあたり、担当所管課に伝えます。
16	R4年度第2回政策委員会	災害があった時に望む支援について、アンケート結果の数値の高い項目はとても重要な内容なので、行政として何とか改善できれば。	計画策定にあたり、担当所管課に伝えます。
17	R4年度第2回政策委員会	気づいた時期が幼児期と18歳以降に多い傾向にあると思います。この時期にわかるきっかけ（検診や就労してわかった生きずらさ）があったためだと思いますが、中学や高校でも何らかのきっかけがあれば、気づきがあると思います。それにより18歳以降に気づいた方々の中には、もっと早く対応できるチャンスが生まれるのではないかと思います。中学・高校での障害の理解が深まるよう期待したいです。	計画策定にあたり、担当所管課に伝えます。
18	R4年度第2回政策委員会	様々な要因があるのですが、成年後見制度について「制度名も名前も知らない」の数値が高いことに驚きです。なぜなのか疑問です。	計画策定にあたり、担当所管課に伝えます。
19	R4年度第2回政策委員会	アンケートの障害者理解を深めるために力をいれるべきことの結果から、学校教育での福祉教育の在り方が問われていると思います。カリキュラムに位置付けられていますが、管理職や個々の教師の熱意や力量にゆだねられているのが実情だと思います。	計画策定にあたり、担当所管課に伝えます。
20	R4年度第2回政策委員会	ノーマライゼーション条例について、全く知らないが65パーセント、内容を知らないも合わせると80パーセント以上になります。広報活動を見直したほうが良いと思います。	ご指摘のとおり、広報活動の見直しが必要と考えます。広報活動について、具体的なお提案があれば、ご教示いただけるとありがたいです。
21	R4年度第2回政策委員会	ノーマライゼーション条例について、障害当事者にも、こないない条例があるということを知ってもらおうにした方がいだろう。	ご指摘のとおり、広報活動の見直しが必要と考えます。広報活動について、具体的なお提案があれば、ご教示いただけるとありがたいです。
22	R4年度第2回政策委員会	ノーマライゼーション条例について、「まったく知らない」の数値の高さに驚愕です。なぜこのようなことになっているのでしょうか。	分析を進め、計画策定の際に検討してまいります。

項番	会議	委員ご意見	事務局回答
23	R4年度第2回政策委員会	ノーマライゼーション条例について知らない・内容を知らないという方が8割という結果でした。市のホームページにも掲載されていますが、見る機会は少ないと思います。多くの人に知ってもらえるように広報活動をお願い致します。	分析を進め、計画策定の際に検討してまいります。
24	R4年度第2回政策委員会	障害者施策に対して望むことについてのアンケート結果について、対処の必要性の優先順位がパーセンテージに着目されそうですが、回答総数が障害ごとに異なることは忘れてはいけないと思います。 難病者は、医療費や手当だけに支援をすれば良いと思われがちですが、就労移行支援等の整備を望む方が1割強存在します。 来年度はさいたま市でも福祉の就労を見すえたピアサポート研修を開催すると聞いております。是非、働きたくても働けない方のしっかりとした支援に結びつけてください。	計画策定にあたり検討してまいります。
25	R4年度第2回政策委員会	アンケートでヘルパーサービスの数値が低いのは、使い方がわかっていないというあらわれではないか。福祉サービスが情報として届いてないという一面もあるのではないかな。	情報が行きわたっていないのではないか、ということも含めて幅広く原因を考えながら分析し、計画に生かしていければと考えております。
26	R4年度第2回政策委員会	アンケートの読み方として、数値の少ない部分にも注目する必要があるのではないかな。	情報が行きわたっていないのではないか、ということも含めて幅広く原因を考えながら分析し、計画に生かしていければと考えております。
27	R4年度第2回政策委員会	高次脳機能障害を含めて、就労の支援と就労先の職場の理解を深めるための手立てが欲しい。	計画策定にあたり、担当所管課に伝えます。
28	R4年度第2回政策委員会	①代読代筆に関する意思疎通支援事業を福祉サービスとして位置づけしてほしい。 意思疎通について、問1では、アンケート回答が代理による回答が他の障害に比べてかなり多いことから視覚障害者にとっては、代読代筆の専門の支援者を育成することをふくめた意思疎通支援事業が必須であることがわかります。	計画策定にあたり、担当所管課に伝えます。
29	R4年度第2回政策委員会	②視覚障害者に特化した支援センターの設置を検討してほしい。 問14～18で見られるように視覚障害者の同居家族は、配偶者という回答が多いこと、その配偶者が高齢であることから、いずれはどちらかが欠けてしまいます。その後の相談などは、出ている家族や親せきという回答が多いです。現状親戚などに頼ることは難しいのではと思います。また、問25の就労では、就労先を見つけるのにハローワークという回答が少ないことから、視覚障害者の就労にハローワークでは頼れないことも見えてきます。 視覚障害者の相談・生活・就労に至るまで総合的にここに電話すれば行ってみれば安心という支援体制を築いていただきたいです。	計画策定にあたり、担当所管課に伝えます。
30	R4年度第2回政策委員会	③情報保証について 問35の情報やコミュニケーションのところで、困ることがないという回答が多かったですが、障害政策課の説明にもありましたが、ITが進む中、外に出ればタッチパネルの機器やセルフレジなど、視覚障害者一人では、苦勞する現状です。障害別にあった支援体制を計画にもりこんでいただきたいです。	計画策定にあたり、担当所管課に伝えます。